

第2期 清流の国ぎふスポーツ推進計画（素案） 概要版

策定のポイント

① 第1期計画で顕在化した課題の解決

- ・低調なスポーツ実施率の底上げ
- ・児童の体力低下・スポーツ離れへの対応
- ・「ぎふ清流国体」時の競技力維持
- ・パラスポーツ未実施者への参画機会確保
- ・多様なスポーツ資源の更なる活用
- ・県有スポーツ施設の利便性向上・バリアフリー化

② 東京 2020 大会の成果の継承・発展

- ・パリ大会を目指す選手への対応
- ・合宿誘致、ホストタウン登録を契機とした交流の継続

③ スポーツを取り巻く社会状況の変化への対応

- ・コロナ禍で減少したスポーツ機会・心身の健康確保
- ・働き方改革を背景とした部活動の円滑な地域移行
- ・SDGs「すべての人に健康と福祉を」等への貢献
- ・アナログとバランスをとりながらのDXの活用
- ・国の第3期スポーツ基本計画（R4～R8）への対応

はじめに

策定の趣旨

- 現行計画(H27～R3)の満了に伴い、東京 2020 大会に向けた成果の継承・発展や、コロナ禍の影響を含めた社会状況の変化に対応するために策定

計画の役割

- 本県のスポーツ推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な事項とその他必要な事項を定める

計画の期間

- 令和4年度から令和8年度まで（5年間）
- 社会状況の変化への対応等、必要に応じて見直し

目指す姿

基本目標

誰一人取り残されないスポーツ立県・ぎふ

子どもから高齢者まであらゆる世代の県民が、
それぞれの関心、適性等に応じて、
多様なスタイルでスポーツを楽しみ、
スポーツを通じて生涯にわたり健康と生きがいを得られる
「清流の国ぎふ」の実現

計画推進の考え方

- 基本目標の実現に向け、5つの柱で計画を推進
 - I 生涯にわたる健康と生きがいづくりのスポーツ推進
 - II 世界や全国を目指すアスリートの競技力向上
 - III 障がい者の活躍を広げるパラスポーツの推進
 - IV 地域資源を活かしたスポーツによるまちづくり
 - V 誰もが楽しめるスポーツ環境の整備
- ※「学校体育」は「生涯スポーツ」に統合

施策の展開

I 生涯にわたる健康と生きがいづくりのスポーツ推進



課題

- 成人のスポーツ実施率は全国調査と比較して低調で、特に働く世代・子育て世代で顕著
- コロナ禍がもたらす県民のスポーツ実施への影響が懸念
- 少子高齢化によるスポーツ環境の変化や部活動改革等に起因する多様なスポーツニーズへの対応
- 児童の体力低下、スポーツ少年団・運動系部活動加入率の低下

施策目標

成人の週1回以上のスポーツ実施率 65%

<数値目標>

- 「ミナレク運動」の推進
・レク指導者派遣件数 【年間 365 回】
- 県民参加を広げるスポーツ環境づくりの展開
・「スポーツポイント」の参加者数 【年間 12,000 名】
- 人材の育成・確保
・指導者バンクの登録者数 【1,000 名】

主な施策

1 「ねんりんピック」の県内開催に向けたスポーツ・レクリエーションの振興

新 「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」の再誘致・開催及び「ミナレク運動」の更なる推進

- 「ぎふ清流レクリエーションフェスティバル」の毎年開催

2 県民参加を広げるスポーツ環境づくりの展開

(1) 乳幼児(0～5歳)から運動・スポーツに親しむ習慣の形成

新 運動・スポーツ好きな幼児を育成するプログラムの全県展開

(2) 学校教育におけるスポーツの推進

- 教員の資質・指導力向上による学校体育の充実

新 働き方改革を背景とした部活動改革とスポーツ機会の確保の両立

(3) 学校外での子どものスポーツ環境の整備

- 総合型地域スポーツクラブの育成

(4) 働く世代・子育て世代のスポーツ推進

- 新** アプリを活用した「スポーツポイント」の導入
- 新** いつでも気軽に参加できるオンラインウォーキングイベントの開催
- 新** 大手スポーツ情報企業と連携したスポーツ情報サイトの構築

(5) 高齢者の健康長寿を実現するスポーツ・レクリエーションの推進

- 毎年開催される「ねんりんピック」への選手派遣の継続

(6) 幅広い世代が参加するスポーツイベントの充実

- 新** 県内で活動するトップチームが連携して行うスポーツイベント等の開催支援

(7) 誰もが一緒に参加できるスポーツの推進

- 障がいのある人もない人も共に参加できる「長良川ふれあいマラソン大会」の継続

(8) 県民参加の進捗把握

- 新** 民間データを活用した地域毎のスポーツ実施状況の分析

3 生涯スポーツの基盤となる施策の継続

(1) 総合型地域スポーツクラブへの支援

- 運営基盤に課題を抱えるクラブへの支援
- クラブ間のネットワークや他団体との連携強化

(2) スポーツ推進委員との連携

- スポーツ推進委員が地域のスポーツ団体と連携して取り組む活動への支援

(3) スポーツ、レクリエーションに関わる人材の育成・確保

- 新** 県スポーツ協会が運営する「スポーツリーダーバンク」への指導者登録及びスポーツ団体等とのマッチングの推進

(4) 総合的なスポーツ情報発信

- WEB サイト・YouTube チャンネルやSNS、メディア等を活用したあらゆるスポーツ情報の発信



課題

- ぎふ清流国体時の競技力維持
(天皇杯 H29【13位】、H30【14位】、R1【19位】)
 - ・次世代アスリートの育成
 - ・若い世代の優秀指導者の養成
- 日本リーグ参戦チームの競技力底上げと認知度向上

施策目標

国民体育大会における天皇杯・皇后杯 15位
オリンピック競技大会への出場選手数 パリ大会 25名
ミラノ・コルティナ冬季大会 5名

<数値目標>

- 指導者の養成
 - ・全国トップレベル指導者の年間を通した招聘
 - ・指導者資格「コーチ3、4」取得 【各年間5名(5競技団体)】
- 次世代アスリートの発掘・育成・強化
 - ・「ジュニアアスリート発掘プロジェクト」を通じて適性に合った競技に取り組んでいる割合 【50%】

主な施策

1 次世代アスリートの発掘・育成・強化

新 競技団体が独自で取り組むジュニア選手の強化指定、練習会や合宿・遠征などの活動支援

- 日本一を獲得できる、または目指すことができる高校部活動の重点的強化
- 「ジュニアアスリート発掘育成プロジェクト」の充実

2 日本一を目指す指導者の養成

(1) 指導者の養成

拡充 年間を通した全国トップレベルの指導者の定期招聘の支援

新 全国レベルで活躍する若い指導者に対する上級指導者資格の取得支援

(2) 指導者の把握と適性な活用

新 競技団体と連携した指導者リストの作成

3 日本一を目指す選手・チームと競技団体への支援

(1) トップアスリートの育成・強化

- 日本一獲得やパリ大会出場を目指す等の選手・チームへの重点的強化支援

(2) チームの育成・強化

- 「岐阜方式」で設立したクラブチーム等への強化支援

(3) 競技団体の支援

- 県内から選手を発掘・育成する一貫した指導に取り組む競技団体への活動支援

4 競技力向上に向けた環境の整備

(1) 医・科学サポート体制の整備

- 岐阜県スポーツ科学センター及び御嶽濁河高地トレーニングセンターの運営体制や機器等の維持・充実

拡充 科学サポートのデジタル化の推進

(2) 優秀選手の確保と地域で指導できる環境整備

- トップレベルで活躍する選手や指導者が県内を拠点に活躍できる環境の整備

(3) 練習環境の整備

- 県有施設の管理者や県立学校による柔軟な練習施設の確保

(4) 特殊器具の整備

- 競技用器具の性能が試合結果に大きく影響する競技団体等への計画整備の支援

5 アーバンスポーツなど新たな競技への対応

新 アーバン（都市型）スポーツ、「身体運動の伴う仮想（バーチャル）スポーツ」への対応の検討

6 トップアスリートに関する情報発信

- SNS等によるトップアスリートの情報や競技成績などの発信

施策の展開

Ⅲ 障がい者の活躍を広げるパラスポーツの推進



課題

- 障がい者スポーツ未実施者への参画機会の更なる確保
- 成果が出始めたパラスポーツの競技力向上支援の継続

施策目標

スポーツを行う障がい者の裾野の拡大とパラアスリートの育成・強化

<数値目標>

- 裾野拡大
 - ・パラスポーツ教室開催数・参加者数 【年間 39 回・900 名】
- 競技力向上
 - ・パラリンピック出場選手数 【パリ 2024 大会 10 名】
 - 【ミラノ・コルティナ冬季 2026 大会 5 名】
 - ・日本代表選手数 【25 名】

主な施策

1 裾野の拡大

(1) パラスポーツ教室の実施

- 新** 障がいのある人もない人も参加できるイベント等におけるPRの実施
- 新** 障害のない人も参加できる機会の創出

(2) 全国障害者スポーツ大会への選手団継続派遣と参加促進

- 「全国障害者スポーツ大会」への選手団の派遣及び強化支援

(3) 県内における障害者スポーツ大会等の充実

- 新** 障がいのある人もない人も参加できる「パラスポーツフェスタ（仮称）」の各圏域での開催

(4) さらに裾野を広げるための情報発信

- 新** 広報誌等を活用したパラスポーツ教室に関する情報発信

2 競技力の向上

(1) トップアスリートへの強化支援

- 新** デフリンピック競技の有力選手への強化指定

(2) 科学サポートの継続

- 県スポーツ科学センターへのパラアスリート専任研究員等の継続配置

(3) 次世代のトップアスリートの育成

- トップアスリートを目指す選手の大会・合宿参加、用具購入費の支援

(4) トップアスリートを育てる指導者の養成・活用

新 全国トップレベルの指導者招聘の支援

新 健全者競技団体の指導者に対する初級障がい者スポーツ指導員の資格取得支援及び選手とのマッチングのサポート

(5) 競技団体・選手の活動支援

- 団体の設立準備、設立後の運営費の支援

新 持続可能な組織運営のための研修会の開催

3 パラスポーツを支える環境づくり

(1) 岐阜県障害者スポーツ協会への支援と連携強化

- 県障害者スポーツ協会の運営体制及び関係団体との連携の強化

(2) 専門指導者の養成

- 初級障がい者スポーツ指導員の養成及びパラスポーツ教室への派遣

(3) パラスポーツができる環境の充実

- ぎふ清流福祉エリア内の各施設と連携した「岐阜県福祉友愛プール」「岐阜県福祉友愛アリーナ」の利用促進

(4) 特別支援学校体育連盟による障がいの種類や程度に応じた運動の推進

- 特別支援学校体育連盟が行う「特別支援学校ふれあいスポーツ事業」の開催支援

4 パラスポーツやパラトップアスリートに関する情報発信

新 県内の準トップ選手等が、東京 2020 パラリンピックに出場した県ゆかりの選手から学ぶ機会の創出

- 多くの県民が観戦する健全者の競技大会にパラ種目を追加する取組みの推進

施策の展開

Ⅳ 地域資源を活かしたスポーツによるまちづくり



課題

- 多様な地域資源（有名チーム、スポーツ・観光資源、住民活力）の活用が不十分
- 飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの認知度向上

施策目標

地域が自らの資源（スポーツチーム、スポーツ競技、自然、住民活力等）を活かしたスポーツによる地域振興に取り組む

<数値目標>

- 地域住民の健康・生きがい、絆づくり
・「スポーツ振興まちづくり補助金」の交付を受けて開催される県内スポーツイベントの年間県民参加者数 【延べ 25,000 名】
- 地域ブランドの確立と交流人口の拡大
・飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア利用者数 【年間延べ 30,000 名】

主な施策

1 地域住民の健康・生きがい、絆づくり

- 新** 県内で活動するトップチームが連携して行う活動PR等への支援
- 東京 2020 大会ホストタウン登録を契機とした各国との交流
- オール岐阜によるFC岐阜への支援

2 地域ブランドの確立と交流人口の拡大

- 新** 「世界パラ陸上競技選手権大会（R4：神戸市）」に向けたカナダ代表チームの事前合宿誘致
- 「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」などの魅力あるスポーツイベントの継続開催及び市町村、スポーツ関係団体等による誘致・開催への支援
- 全国・国際的な大規模スポーツイベントの誘致・開催（全日本実業団対抗陸上競技選手権大会(R4、R5)等)
- 新** 多くの県民が参画するスポーツイベントの開催・誘致に取り組む市町村、競技団体への支援

3 東京 2020 大会をきっかけとした本県の魅力発信の継続

新 東京 2020 大会で発信してきた本県の魅力（食、モノ、文化など）の磨き上げ及び国際見本市への出展等の積極展開

4 スポーツによるまちづくりを推進する情報発信

新 スポーツ情報WEBサイトによるスポーツ資源を活かした地域の取組み等に関する情報発信



課題

- 施設の更なる利便性の向上やバリアフリー化
- スポーツにおける暴力・ハラスメントや、アスリートが抱える健康問題などへの対応

施策目標

多くの県民が集えるスポーツ施設の整備・充実と健全なスポーツ活動を支える体制づくり

<数値目標>

- 県有スポーツ施設の整備
 - ・トイレの洋式化率 【85%】
 - ・照明のLED化率 【70%】
- 安心してスポーツを楽しめる環境整備
 - ・暴力・ハラスメント根絶に向けた研修に参加した指導者数 【年間 600名】

主な施策

1 県有スポーツ施設の整備

(1) 誰もがスポーツを楽しめる整備

- バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等の推進

(2) トップアスリートのニーズに対応した整備

- 県内スポーツ施設の先導的役割を果たす中核施設としての高水準機能の維持

(3) 施設における県民参加を広げる取組みの展開

- 新** キャッシュレス決済の導入など ICT活用による利便性の向上及び大会等のオンライン配信を可能とする高速通信環境の整備

(4) より多くのスポーツ需要を見据えた施設整備の検討

- 地域需要のある施設（屋内プール、屋内スケートリンク、アーバンスポーツ施設等）の新設の継続検討

2 安心してスポーツを楽しめる環境の整備

(1) スポーツにおける暴力・ハラスメントの根絶

- 暴力・ハラスメントの根絶に向けた指導者研修の実施
- 県スポーツ協会への「暴力行為等相談窓口」の設置及び関係機関と連携した相談事案への適切な対処

(2) アスリートの健康の確保

- 県スポーツ科学センターへの相談窓口の設置及び指導者向け研修会の開催
- 産婦人科医による女性アスリートに特化した相談窓口の設置

(3) With コロナに対応したスポーツの安全の確保

- 県有スポーツ施設における新型コロナウイルス感染防止対策の徹底
- With コロナを意識したスポーツ実施の普及啓発